

# 中高年よ、フォーク歌おう

## 「戦うオヤジの応援団」静岡でもライブ

フォークソング好きな中高年がステージに立つ「戦うオヤジの応援団」。大好きな歌を歌うことで、聞いている人だけでなく、自らも励まそうという活動には、全国で1300人を超える会員が参加している。性同一性障害に悩んだ人、子育てを終えて30年ぶりにライブに復帰した人。県内のメンバーは、それぞれの事情を抱えながら、集い、歌っている。

(阿部朋美)



ライブに向けて練習にいそむ会津さん（左）と鈴木さん夫婦。息をぴったりと合わせた演奏を続けていた＝静岡市駿河区

9月上旬の日曜日。静岡市葵区御幸町のペガサートの一角に設けられた即席ステージに、30〜60代のシンガーたちが集まった。「戦うオヤジの応援団」の静岡支部「SP静岡」の面々だ。13人9組が、吉田拓郎や松任谷由実など十八番を披露。懐かしいメロディーに買い物客らが足を止めて耳を傾けた。

この日の「路上ライブ」を呼びかけたのは、ベーシストの会津里花さん。自らは、ギターと三線を融合させた楽器「一五一会」を操る。ペガサートの活気を取り戻そうと、企画した。

会津さん自身も音楽に救われた。心と体の性が一致しない「性同一性障害」にずっと悩んでいた。中学のころはビートルズのレコードに励まされ、高校、大学ではバンドを組んでいた。

性別適合手術を受けた後、離れ

## 「仲間」へ、そして自分にエール

ていた音楽活動を再開した。インターネットで応援団の存在を知り、4年ほど前に加入。同年代のフォーク好き仲間と出会えた。そのうちのひとり、鈴木陽子さん(59)は学生時代、国内外のフォークミュージックに夢中となり、1日としてギターを手にしない日はなかった。しかし、結婚、出産を機に音楽から離れていた。

数年前、約30年のブランクをへて、夫の正広さん(60)とユニットを結成。現在は県内外で開かれるアマチュアバンドによるライブに参加している。鈴木さんは「今までまわりに一緒に演奏する仲間がいなくて飢えていた。世界が変わって、楽しくて楽しくて」と笑顔を見せる。

応援団は2001年秋に発足。当時、中高年の自殺が社会問題になっていたが、呼びかけ人の山下浩司さん(56)が「中高年は自殺している場合じゃない、立ち上がる」と、ホームページ(HP)と一緒に音楽に取り組む人たちを募った。現在は会員1300人を超え、全国20カ所にSPという支部があり、練習会で腕を磨いている。

会員希望は事務局(03・3219・2222)か、HP (<http://tatakanoyaji.com/>)。<